

朝の礼拝

聖書 エレミヤ書 31 編 33-34 節（旧約聖書 1022 頁）

その日の後、私がイスラエルの家と結ぶ契約はこれである——主の仰せ。私は、私の律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心に書き記す。私は彼らの神となり、彼らは私の民となる。もはや彼らは、隣人や兄弟の間で、「主を知れ」と言って教え合うことはない。小さな者から大きな者に至るまで、彼らは皆、私を知るからである——主の仰せ。私は彼らの過ちを赦し、もはや彼らの罪を思い起こすことはない。

良心

聖書には神様と人との約束が書かれています。それは神様がどんな時も、いつまでも共にいるという約束です。ところが人は何度も、何度も神様を忘れ、約束を破り、さらに神様と取引して試そうとさえしました。そこで神様は悔い改めない彼らを大国の手に渡し、遠い異国の中へ送ったのでした。

しかし神様は心の底では「彼のために私はらわたはもだえ、彼を憐れまばにはいられない」（31 章 20 節）と苦しんでいました。約束を破れば裁きが下り、償いをしなければなりません。しかし異国に捕らえられた民衆の苦しみは、神様ご自身の内臓がねじれ、ちぎれるような痛みとなって返ってきたのです。

冒頭に「その日の後」とありました。「その日」とは捕らわれた民衆が解放される、救いの日のことです。そこで神様は新しい約束を結びます。「私の律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心に書き記す」と言うのです。もはや新しい約束は文字や言葉ではなく、神様ご自身が心に書き記すと言っています。

私たちも聖書を読んでいますし、知っています。でも日常生活で忘れていることが多い、神様の御心に適わないことをします。そこで神様は私たちに「良心」を与えたのです。良心は神様の御心を感じる心です。神様が直接私たちの心に語りかけ、聖書の言葉を思い出させてくれるのです。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、わたしたちは毎日、学校で、その登下校で、そして家族と過ごす時も、あなたとの約束を見失ってしまうことがあります。どうかあなたを知り、あなたと共に学び、あなたと共に考えるのは、私たちに与えられた良心の恵みです。どうか私の願いではなく、あなたの御心を歩ませてください。明日は高校入試が行われます。中学三年生、すべての受験生を祝福してください。またいまだ愚かにも争いを続ける人々に悔い改めの心を与え、特に嘆き悲しむ人々の祈りを省み、共に支えとなり、ひと時でも早くあなたの平和に与らせてください。どうか今日一日もすべてをあなたに委ね、よき学びの時を過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいいたします。
アーメン